

真宗大谷派山陽教区 FCプロジェクト

～お寺に泊まろう～ in さんよう 2015

7月27日～8月3日

『活動報告と御礼』

—御挨拶—

ようやく初めての活動報告を皆様のお手元へお届けする運びとなりました。支援する側、される側という立場を超えて共に生きる力となる活動を願い、たくさんのご賛同・ご協力を皆様からいただいたおかげで、今年度もFCプロジェクトを開催することができました。心より感謝申し上げます。

今まで出遇ってきた福島の子どもの顔が時折浮かんできます。その時いたたまれない思いや、自分の在り方や国の在り方が問われてきますが、まだまだ保養を続けていくことが大事だと感じております。次年度も保養活動を継続していきたいと思っております。一緒に考えさせていただければと思います。ぜひ子どもたちに会いに来てください。

今後とも引き続きのご支援ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

本当は保養が必要にならない日を願って… ありがとうございます。

教区教化委員会青少幼年部 部長 栗栖 寂人

—活動記録—

日時		日程
7/27(月)	午前	福島駅出発
	午後	教区同朋会館宿泊
28(火)	午前	姫路観光
	午後	ホームステイ[前半]
29(水)		教泉寺(神戸組)
30(木)		圓徳寺(3組)
31(金)	午前	正蓮寺(5組)
	午後	お楽しみ会(BBQ) ホームステイ[後半]
8/1(土)		誓福寺(4組)
2(日)		教順寺(赤穂組)
3(月)	午前	願船寺(赤穂組) 閉会式
	午後	姫路出発・福島着

7月27日～8月3日の日程で福島の子ども達を山陽教区にお招きし、教区内の寺院にホームステイしてもらう活動「FC(フクシマチルドレン)プロジェクト」を開催しました。

東日本大震災の翌年からスタートし、今年で4回目となるこのFCプロジェクトに5名の子ども達が姫路へやってきました。

5時間近い新幹線での移動でしたが子ども達は元気いっぱい。これからの8日間を楽しみにしているようでした。その夜はスタッフお手製カレーを食べ、花火を楽しみました。翌日は昼食に流しそうめん。午後からは最初のホームステイ先へ。3泊4日のホームステイを過ごした後、31日に再び全員書写アウトドアパークタロリン村に集まり、バーベキューやゲーム、スイカ割りを楽しみました。暑い日差しが照りつける一日でしたが、山の中では涼しい風も吹き、青空の下笑顔があふれていました。

その後、次のホームステイ先へ。最終日、ホームステイを終えて、本徳寺本堂にて閉会式。それぞれ体験した事や感じたことを感想文にしてもらい、皆の前で恥ずかしがりながらも披露してもらいました。

姫路駅にてお別れの時間、FCプロジェクトに関わった沢山のスタッフに見送られ「また会う日まで元気でね！」と握手を交わし、福島への帰路に着きました。



—感想文— (抜粋)

私は初めて参加して、最初は心配やきんちょうしていたけど、来てみると、スタッフのみなさんがやさしく話しかけてくれて、自然と楽しめました。1日目の夜はみんなで花火をして楽しかったです。2日目からはホームステイ先の人と行動して、お経をあげたり、海に行ったりして楽しかったです。前半のホームステイ先のお寺には、幼稚園と保育園があって保育園に行って、みんなと遊んだりご飯を食べたりしました。私は将来保育士になりたいのでよい経験になりました。…今年の夏はこのプロジェクトに参加してとても充実した1週間でした。スタッフのみなさんありがとうございました。(中学1年女子)



ぼくは、このプロジェクトに初めて参加しました。…最初はみんなと、なかなかしゃべれなかったけど、だんだん仲よくなって楽しく遊ぶことができました。お寺でしかできないこともしました。たとえば、鐘をついたりしました。最初は、ぜんぜんうまくつけなかったけど、だんだんじょうずになりました。びっくりしたこともありました。食前と食後のことほか、ながいことです。家では、「いただきます」と「ごちそうさま」としか言わないからです。ぼくは兄だいがいないので休みの日はつまらないけど兵庫では楽しくすごすことができました。…兵庫県に来てとてもじゅうじつした1週間でした。また兵庫県に行きたいです。(小学校5年生男子)



—ホームステイ寺院の声—

第5組 正蓮寺 高谷千賀子

平成27年福島子どもプロジェクト

受け入れ寺院を体験して

「46分って嫌な時間～」 「うん。嫌な時間～」 「うんうん」 この時スーッとお互いの気持ちが打ち解けたように思えました。

今年も福島の子もたちが姫路へやってきました。今までプロジェクトへは自坊からはスタッフとして単独で参加していましたが、今回は初めての受け入れ寺院です。これはその内の中学1年生の女の子2人が、自坊へ3泊4日滞在中の夕食時の会話です。

阪神淡路大震災の時、神戸市役所に勤めていた住職が当時の悲惨な神戸の状況を話した後、「そちらも大変やったねえ。でも神戸とちがって津波の被害が一番大きかったんやね。」

内心どう答えてくれるのか少し不安になりましたが彼女たちはしっかりと話してくれました。自衛隊のお父さんがずっと仕事で家に帰ることが出来なかったこと、部下の方が夜寝る時にうなされる人が沢山いたこと、ランドセルを学校に置いたまま3学期がずっと休みだった等々。そして彼女たちは口をそろえて言いました。「でも私たちよりずっと大きな被害にあっている人がいるから」。小学4年生だった子どもがどんな思いでいたのか、4年間どんな思いをしてきたのか遠く離れた私たちの想像の及ばないところが沢山あるでしょう。そして冒頭の「46分って嫌だ」と言い合った時、型も被害も復興の仕方も違う2つの大震災への怒り憎しみとともに、それをはるかに上回る「お互いを思いやる心」が、皆の心の中に溢れているように思えました。

またリクエストで近くの家へ行った時の事です。「震災以来、初めて海に入った～」 「え～そうなん」 「地震の前は毎年家族で行ってたけど～」。彼女たちにとって海で遊ぶという気持ちが、4年経って変化したのかどうかはわかりません。ただ、海でいつまでも飽きずにはしゃいでいる彼女たちを見て思いました。あの恐ろしい津波の映像は記憶に残っているけれども、同じ太平洋の楽しい海の記憶をいっぱいお土産にして帰ってね～、と。



—山陽教区の福島子ども支援の歩み—

2011年	山陽教区青少幼年部を中心に有志を募り 保養地として福島の子供を受け入れる。 姫路と京都東本願寺で開催 児童10名参加
2012年	FCプロジェクト始動 姫路近郊のお寺でのホームステイが始まる。 児童16名参加
2013年	ホームステイ先に広島の寺院も参加 児童15名参加
2014年	山陽教区で毎年行われる児童夏の集いと 一日だけ合わせて開催。姫路近郊の児童との 交流の場となった。児童10名参加



—御礼—

義捐金 889,160 円

2014年9月～2015年8月までの間にFCプロジェクトへこれだけのご支援を頂きました。山陽教区内寺院や有縁の方々からのカンパ。また、教区内の各種教化事業で募金活動もさせて頂きました。本当に多くのご支援を頂きありがとうございました。このお金はFCプロジェクトの活動費として使わせて頂きました。

多くのボランティアスタッフ・ホームステイの受け入れ等、皆様の温かいご支援ご協力に心より御礼申し上げます。



めざメェくん あゆモウちゃん

真宗大谷派山陽教務所 〒670-0044 姫路市地内1番地
TEL (079)292-3690 FAX (079)292-1747
mail sanyo@higashihonganji.or.jp
発行 真宗大谷派山陽教区教化委員会青少幼年部
2016年2月